

平和への信念

名蔵中学校 1 年 當銘 和輝

僕は、普段、特別なことがない限り、平和について考えることはありませんでした。しかし、年齢が上がるにつれてニュースを見るようになってからは、平和について考えることが多くなりました。日本人を含め、色々な国の人に対して人質殺害が行われたり、空爆で人々が傷つけられたり殺されたりしているニュースが報道されると、罪もない人が犠牲になることへの疑問と怒りがこみ上げてくるようになりました。

昨年ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんは、女子教育の大切さや、全ての子どもが学校に行ける平和な世界のために何をすべきかを訴えました。イスラム過激派に銃撃されても、主張を変えませんでした。暴力や銃弾の脅しにも負けない勇気と平和への信念が世界中の人々の心を動かしました。平和を願うだけなら、誰でもできます。しかし、実際に行動できる人は決して多くはありません。マララさんのような人が増えれば、世界が平和になるのは決して遠いことなのではないのかもしれないかもしれません。

マララさんの受賞演説に、「『強い』と言われる国々は、戦争を起こす上では非常に力強いのに、なぜ平和をもたらす上ではあまりに弱いのか。銃を渡すことはとても簡単なのに、なぜ本を与えるのはそれほど大変なのか。戦車を造るのは極めて易しいのに、なぜ学校を建てるのはそんなに難しいのか。」という言葉があります。戦争のためならお金にいとめはつけないのに、教育に関してはそれを惜しむ考えに、僕も疑問と憤りを感じました。戦いのために使う力とお金と知恵を、なぜ、教育や平和のために使ってはくれないのかと思いました。

以前の僕は、外国人や障害を持っている人に対して少し偏見を持っていました。平和に対するイメージもなかなかかわいてきませんでした。でも、戦争の資料やマララさんの考えを書いた本を読んで、偏見が無くなり、もっと平和について考えてみたいと思うようになりました。

人種の違いや考え方の違い、宗教の違いなど、世の中にはいろいろな思想の違いがあるのは当然です。だからといって、暴力をふるったり、殺したりするのは間違っています。いろいろな思想の違いを理解しそれを受け入れないといけないと思います。

マララさんの勇気と行動が僕を変えました。自分から行動出来る人になりたいと思えるようになったのです。まずは、小さな行動の積み重ねです。例えば、相手の事を思いやり、差別的な言葉や傷つける言葉を使わないようにしようと思います。小さなことも大きな力になると思うので、努力し続けようと思います。平和な暮らしをみんなが送れる日が来るのを願って、今日も僕は、小さな行動をしていきます。